

## ～2024ふくふくまつりに参加して～

12月7日（土）「福生市・福生市教育委員会・福生市社会福祉協議会」後援のもと福祉センターを会場に「2024ふくふくまつり」が開催されました。

今回の趣旨は、多くの人々がお互いに助け合い協力して、一人一人の意識から地域福祉への理解を深め、思いやりの心を育む「きっかけ」になるようにと開催されたものです。



参加66団体により屋内外の模擬店・販売コーナー、展示・PRコーナー、福祉体験、歌や踊りのアトラクションなど様々な催し物が行われました。当日は福祉バスが稼働していたこともあり、来場者数は約1200名と盛況でした。

### {福祉体験～車椅子・高齢者疑似体験}

福生市民生委員・児童委員協議会（以下、福生市民児協）は昨年と同じく「車椅子と高齢者疑似体験」コーナーを担当しました。

民生委員・児童委員は様々な部会活動をしています。今回は「高齢福祉部会・障害福祉部会・生活福祉部会」の福祉三部会合同で参加しました。

会場は福祉センターの2階部分で「点字体験・手話体験・アイマスク体験」などの展示体験コーナーの一角です。

ちょうど「障がい者週間」の期間中と相まって、やさしい地域、みんなで考える「共生社会」ということから、多くの皆様に福祉体験コーナーを利用していただきました。



### {車椅子の体験談}

車椅子体験では小学生から80代の高齢者まで幅広い年齢層の方、ご家族連れの皆様に体験していただきました。

コースは2階の長い廊下を進み、屋上庭園に設置してあるスロープを押し上がったたり、後ろ向きに下がったりと内容が盛りだくさんで、教える方も教わる方も真剣そのものでした。

体験談として「乗っている人への声かけや、周りの人への声かけが大変だけど、大切さが分かりました。」

「坂道を押すのは大変でした」「坂道で後ろに下がるのは体重以上に重く感じた」「今後の役に立った」「街中で車椅子に乗っている方を見かけたら、より気配りするよ



うに心がけたい。」など体験したからこそその実感のこもった言葉が寄せられました。

### {高齢者疑似の体験談}

高齢者疑似体験は、重量のあるベストを着用し、利き足利き手に重しを付け関節が曲がらないようにした上に、緑内障を想定した視野が狭い眼鏡をかけ、杖をついて長い廊下を人を避けながら歩き、階段を昇り降りするという大変なものでした。

若い方は最初は笑顔で一つ一つ装備を付けていましたが、全身装着して歩き出すと普段のように歩けないため不安になり、たちまち笑顔が消え真剣そのものになりました。

体験した方々は「心の準備ができました」「超高齢者に対する思いやりがもてました」「貴重な体験をしました」「関節の動きや視野が狭くなることによる不安の大きさが良く分かりました」など障害を持った方や高齢の方の気持ちが少し理解できたようです。

また「付添の方の声かけが的確で安心できた」「貴重な体験でもっと機会を増やしてほしい」など私たちにとって嬉しいご意見もいただきました。福祉三部会が事前に体験研修を受講した結果が表れたものとして今後の活動の励みといたします。



### {福祉三部会ふくふくまつり参加の事前研修}

「2024ふくふくまつり」に福生市民児協として参加するにあたり、11月21日に福生市民児協の福祉三部会合同による「車椅子・高齢者疑似体験」の事前体験研修を受講しました。

福生市社会福祉協議会職員の講師による、介助に伴う知識と実技指導を学び体験した結果

1. 怪我や事故防止のため、車椅子を動かす前に必ず声をかける。
2. 段差の上り下りは、ティッピングレバーを踏んで前輪を浮かせる。
3. 車椅子を停止した場合や離れる場合は必ずブレーキを掛ける。
4. 介助者は、相手の様子をよく見て間髪を入れずに声をかける。
5. 一つ一つの動作を意識しながら対応することが大事。

短期間で介助技術を修得することはできませんが、少しずつ経験を積んで技術を磨いていきたいと思っておりますので、また今回のような体験コーナーで民生委員・児童委員を見かけたらお声をかけてください。